

## 第51回全国大学保健管理研究集会に参加して

開催日：平成25年11月13日（水）～14日（木）  
場所：岐阜 長良川国際会議場・岐阜都ホテル



第51回全国大学保健管理研究集会の様子をご紹介します！

今回の研究集会のテーマは「大学保健管理・次世代への飛翔～生涯健康をめざして～」でした。2日間盛りだくさんのプログラム内容でした。プログラム・抄録集もいつもと違うデザインで、ネームカードの裏には研究集会のタイムスケジュールが印刷されておりとても斬新でした。（^o^）

←駅に到着すると歓迎の横断幕が！



### 第1日目



#### 特別講演：生涯健康とがん予防

がんの発生には食事など環境要因と生活習慣が関係するため、がんの発生予防には健康診断と予防に関する知識の普及とそれに基づく行動が必要。がんの発生予防には発がんに関係する物質の暴露を抑制することも大事だが、がんの発生を抑制する物質（ポリフェノール、フラボノール系物質など）の摂取も大切というお話が岐阜大学学長 森秀樹先生よりありました。

#### 教育講演1：大学保健管理センターにおける研究倫理の現状とあり方

大学保健管理施設での研究を支援するために、国立大学法人保健管理施設協議会倫理審査委員会委員長の山縣然太郎先生より、様々な提言があり、医学系の研究は所属機関の倫理審査委員会などで審査が行われているが、教育学系の研究者による健康科学の研究や心理系の研究者の人を対象とした研究は倫理審査を経していない場合が多いことを指摘されました。



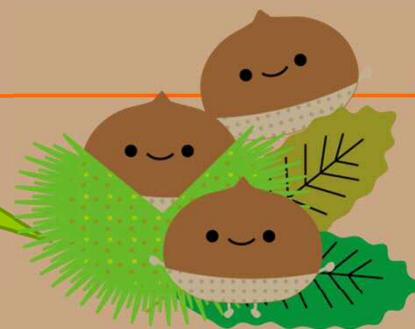


### ランチオンセミナー

ランチオンセミナーは「生活習慣病の予防のために「食べる」を考える」に参加しました。日本人の食生活は「飽食」と言われてきましたが、「食べ過ぎ」による総カロリーの過剰という考え方は正しくなく、栄養素の偏りが問題である。特に20歳代の栄養においては脂質に大きな偏りがある。また、調理法（電子レンジの多用）との関係で**劣化コレステロール**を多く含む食品が摂られる傾向があり、動脈硬化を防止する観点から改善が望まれる。現在は一年中野菜が取れるため野菜の栄養素が減少しており、旬のものを適切な調理法で食べること、また食べる際には食べ方（食事の際、食物繊維からとると高血糖・肥満を改善）も重要であるとのお話がありました。

余談ですが・・・^\_^; ランチオンセミナーで配布されたお弁当（写真）は「なだ万」製でした！とてもおいしかったです！

ここで  
ちょっと休憩  
^\_^



企業展示には多くの方が訪れていました。フットマッサージのコーナーはいつも看護職の皆さんがずらり！



会場内にはお土産コーナーもありました。岐阜では鮎菓子、栗きんとんが代表的な銘菓だそうです。



### 特別招聘講演、特別セッション

特別招聘講演は同時通訳で行われました。米国と英国の大学生の健康管理施設の状況が紹介されました。保健管理施設発展の歴史的背景や支援体制に違いはあるものの、大学生が抱える健康問題には変わりがないことがわかりました。

特別セッションは「大学の国際化と保健管理」というタイトルで、政策研究大学院大学 鈴木真理先生が「政策研究大学院大学における外国人留学生の健康実態」、東京学芸大学の石井 彰先生が「留学生の健康管理を想定した胸部X線のあり方」、「国立国際医療研究センター 氏家 無限先生が「留学前に必要なワクチン」についてお話されました。今後、日本の大学で学ぶ留学生数は益々増加傾向にあり、日本から海外へ留学する日本人学生も2倍にしていく計画があるとのことで、今回のお話はとても参考になりました。

### 第2日目

#### 保健看護職代表者会議

関東甲信越地方部会の看護職代表から呼びかけがあり、広島大学 杉原さん、愛媛大学 村上さんと参加しました。日程の関係で朝早くからの会議でしたが、会場内でとても幻想的な光景に出会うことができました。

#### 一般研究発表

多くの演題が出され、活発な討議が行われていました。皆さんの熱心に取り組まれている発表をお聞きしてとても励みになりました！





## ランチョンセミナー

2日目のランチョンセミナーは「若者のうつを考える：うつ病と新型うつ病」に参加しました。

「新型うつ病」はDSM-5やICD-10に存在しない。我が国の実臨床のニーズに合わせた、マスコミが主導した病名であり、ある意味非常に国内的でより限局的な色彩が強い。未熟なパーソナリティをベースにした、若者を中心とした競争社会に対する適応不全であり、程度も軽く、薬物療法は奏効するケースは多くない。等のお話が岐阜大学大学院医学系研究科 神経統御学講座 精神病理学分野の塩入 俊樹先生からありました。

## 教育講演2：妊娠・不妊に関する知識の普及啓発について

男女ともに妊娠には適した年齢があり、卵子は出生後新たに作られることがなく、質・量ともに減少し続ける。そのため、年齢とともに妊娠しにくくなったり妊娠異常が起きやすくなる。また不妊治療の成績も30代後半以上になると年齢が上がるにつれて低下する。このような知識が必要な人に伝わっていないことが大きな問題になっていると厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 母子保健課 課長の桑島 昭文先生からお話がありました。



特別セッション2.3は時間の関係で残念ながら拝聴することができませんでした。以下は、研究集会番外編です！中四国から参加された皆さんからいただいた写真を掲載しました。 岐阜のあれこれをお楽しみください。

## 番外編

岐阜駅前



岐阜バス 織田信長のイラストがどーんと描かれています。内装も雰囲気がありましたよ！



都ホテル ラウンジのアフタヌーンティー  
おいしそうですね～。( \*^\_^\* )



高島屋



岐阜城



なばなの里  
イルミネーションがとてもきれいです。  
紅葉のライトアップもいいですね！

